

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

- ◎知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立をめざす学校
- ◎仲間、地域、社会とつながり、地域での社会的自立をめざす学校
- 1 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかな体と心豊かな人間の育成をめざします。
 - 2 実践的な職業教育の充実を図り、仲間と地域の中での学びを通して、主体的に社会に貢献できる人材を育成します。
 - 3 泉北・泉南地域における知的障がい生徒の就労支援の拠点校として支援教育のセンター的機能を発揮し、学校の取り組みを発信します。

2 中期的目標

創立2年目となる本校は、昨年度に引き続き、めざす学校像を実現するための校内組織の土台づくりを行い、校内組織の充実を目指します。管理職と首席が目標実現推進の舵取りを行い、学年主任、学科長、校務分掌長が推進組織として具体的な計画立案を行います。計画に基づき、全教職員がその主旨と内容を理解して実行に移します。ここでは絶えずPDCAサイクルによる効果の検証を図りながら、次の「中期的目標」を達成していきます。

- 1 すながわ高等支援学校の専門性の確立
 - (1) 授業力の向上
 - (2) 教員の支援教育の専門性（支援関係免許取得率現在48%から60%へ）と社会人としての資質向上をめざす
 - (3) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育
 - (4) 保護者と学校が卒業生100%企業就労の進路目標を共有
- 2 地域の知的障がい生徒の就労支援の拠点校としての使命を果たす
 - (1) 支援教育のセンター的機能の発揮
 - (2) 積極的な広報活動により地域、企業とつながります
 - (3) クラブ活動の活性化と合同練習等の高等支援学校間連携
 - (4) 泉北・泉南地域の支援学校の包括的な連携（佐野支援、泉南支援との3校連携を推進）
- 3 地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実
 - (1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり
 - (2) 常に進化を続ける学びと実践の人材育成

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
---------------------------------	------------

府立すながわ高等支援学校

<p>○生徒、保護者、教職員を対象に実施 生徒91% (H27年度90%) 保護者91% (H27年度84%) 教職員100% (H27 100%)。生徒、保護者は高い数値であるが100%になる努力が必要。来年度は3学年揃うので母数がさらに増加する。昨年度と同時期に実施したが、時期や周知方法、設問項目の再検討を実施する予定。</p> <p>【学校満足度等】 「学校に行くのが楽しい」「子どもは学校に行くことを楽しみにしている」の設問では、生徒81%、保護者88%が肯定的にとらえている。ただし、「学校生活について先生の指導に納得できる」「学校の教育活動について満足できる」という、学習指導等についてはそれぞれが生徒75%、保護者93%となっている。これは生徒に対して、さまざまな指導、支援を展開するするうえで、より一層のきめ細かく「個別の教育支援計画」に則った、集団の中での個別性を重視したアセスメントが必要であると考えられる。</p> <p>【生徒理解、人権教育等】 「先生は私たちの障がいについてよく理解してくれている」「学校は(担任)は子どもの障がいについてよく理解している」の設問では、肯定的が生徒73%保護者75%。「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」「学校は子どもの人権に配慮した教育活動を行っている」では生徒94%保護者85%と肯定的にとらえているが、教職員自らのより一層の研修が必要である。</p> <p>【進路指導等】 「学校は進路についての情報を知らせてくれる」「学校では適切な進路指導が行われている」の設問では、生徒86%保護者89%と満足度が表れている。「就労を通じた社会的自立」という教育目標と、生徒保護者のニーズが一致していると理解しているが、来年度は一期生の就労マッチングについてきめ細かく指導が必要と考えている。</p> <p>【施設設備等】 「教室や特別教室・体育館などは、授業や生活がしやすいように整備されている」「学校の施設・設備は満足できる」の設問では、生徒84%保護者83%であり、泉南支援学校と併設校であるが、その条件の中ではほぼ満足の値が出ている。</p> <p>【危機管理等】 「地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいかをわかりやすく教えてくれる」「子どもの健康や安全について充分配慮、対応している」の設問では、生徒86%保護者90%と、全体にほぼ肯定的にとらえている。</p> <p>○学校協議会(第3回2月5日)からの意見 【回収率について】 保護者、生徒ともに大変高率な回収率であるのに驚いた。今後はアンケートのためのアンケートにならないよう、その課題をしっかりと整理して取り組むことを希望する。</p> <p>【学校満足度ほか】 ・学校満足度等が高いので、生徒、保護者ともに学校教育に対する信頼感が表れている。また、学校の教育目標がほぼ浸透していると考えられる。大部分の生徒が、自分の思いを言える場、自分らしく生き生きと活動できる場として、学校が存在できているのではないかと。 ・生徒に、社会に出てからすながわ高等支援学校でよかったと思えるようにしていくことが今後の課題になる。</p>	<p>第1回(6/12) ○平成27年度学校経営計画について ・全職員で企業開拓を200件以上おこなうとしたことには感服したが、学校教育の中に、「修正が」がキーワードの現代社会で企業ニーズをどう入れていくのか?弊社では道徳教育で補う方針をとっている。 ○本校進路指導について ・今年度、企業開拓について積極的にやっていきたい。ノウハウを伝えてもらい、一緒に取り組んでいきたい。 ・知的障がいのある方を理解するには、さまざまな人を理解する幅が広がることにもなる。 ○平成28年度教科書選定について ・選定理由および見本閲覧の結果、特に問題なし。</p> <p>第2回(11/27) ○平成27年度学校経営計画進捗状況について ・全教職員での企業開拓が、当初目標の2倍以上の400件以上の成果をあげていることは、よく努力されている。 ・収穫物の販売等では、さらに工夫をされて販路拡大、生産増大に努められたい。地域の飲食店等は、地産の安全な野菜等に魅力を感じている。それは、生徒のやる気と学校の活性化につながる。 ○平成27年度生徒授業アンケートについて ・母数が増えていることもあるが、全体として昨年度より評価が上がっている。さらに授業改善努められたい。 ○平成27年度オープンスクールについて ・昨年度より参加者数が増加。さらに広報活動に努められたい。 ○後期現場実習校内報告会見学 ・福祉懇談会で担当していた生徒が、元気に活動状況を報告していたのを見て感動した。</p> <p>第3回(2/5) ○平成27年度学校経営計画評価(案)について[中期的目標達成度自己評価について] ・来年度にはじめての卒業生が出る。卒業生が出て、はじめて正当な評価が出せるのではないかと。 ○学校教育自己診断(学校教育アンケート)について ・生徒、保護者の評価結果が高いことに驚いた。安心して自分らしくできる環境があるからだと思える。 ・地域福祉関係者として、保護者記述欄のなかに「学校は甘やかしているのでは?」とあったが、甘やかすことと配慮することの区別について、保護者が甘やかすと捉え、本人にふさわしいステージから無理をしてワンランク上にあげてしまうのではないかと心配をする。 ・教職員のアンケート結果を見て、すながわ高等支援学校の強みを教職員が理解できていないのではないかと考える。教職員が学校を自慢できるような状態になればよい。教職員の自己肯定感を高める努力が必要である。 ○その他 今後は校内人権研修等で、「LGBT」に関する啓発を進める必要がある。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
一、すながわ高等支援学校の専門性の確立	(1) 授業力の向上	(1) ア 教員間の研究授業・研究協議の実施 イ 授業アンケートの実施 ウ 授業参観の実施	(1) ア 初任者は前後期で年2回研究授業実施。 イ 前後期で年2回行い、振り返りシートの提出 ウ 年2回行い、うち1回は公開授業週間として保護者と地域支援学校等への案内を実施。	(1) ア、大阪府教育センター初任者研修会場校として2名の初任者の研究授業、ならびに校内初任者研修を実施(○) イ、1年生専門職業学科配属決定の後に、一斉に授業アンケートを1回のみ実施(△) ウ、予定通り公開授業週間と参観授業を実施したが、参観者が少数であった(○) エ、人材バンク登録の外部講師(清掃、行政等)が、授業において生徒たちに将来を深く考える等良い刺激を与えてくれた(○)
	(2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質向上をめざす	エ 人材バンク等外部人材の授業・作業への積極活用 (2) 教員の支援教育の専門性と社会人としての資質向上をめざす研修の実施	エ 複数人材(臨床心理士、作業療法士)で年7回 (2) 「個別の教育支援計画について」などの専門性を高める教職員研修7回実施	(2) 支援教育の専門性を高める研修を年間7回以上実施。キャリア教育、人権教育に関わる研修はほぼ100%の参加で校内OJTにもつながった(○)
	(3) 生徒の特性把握と個別課題を見つけ、より幅広い適性を高める教育	(3) ア 個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実と活用 イ 生徒自身が適性を知り就労のための高い適応力を育む ウ 生徒・保護者のニーズを的確に把握し、就労へつなぐ エ 実践的な職業教育を通じて、高い職業意識を育む	(3) ア ・1年生 中学からの教育支援計画と実態把握、本人・保護者のニーズを踏まえた作成 ・2年生 1年次の支援計画の評価を踏まえた作成 イ 1年次に職業適性検査実施とその活用 ウ 就労につなぐ移行支援計画を作成し、就労先企業の生徒理解と卒業後のアフターフォローに活用 エ ・企業見学会 1、2年で1回実施 ・7月と11月に企業実習 オ ・企業ニーズに合わせた職業教育実施 ・職業学科プレゼンテーション大会の開催	(3) ア、1年生は保護者は入学式までに、4月中旬に中学校より聞き取りを実施しニーズと適性をほぼ100%把握(○) イ、前期に職業適性検査、後期に校内技能検定を実施(○) ウ、在学生全員に「個別の教育支援計画」を作成。順次「個別の移行支援計画」に活用する(○) エ、1年生前期に企業見学会、2年生は前後期ともに10日間の現場実習を実施(○) オ、実習企業担当者を招いての「現場実習報告会」を実施する等、企業と学校のニーズの合意形成を実施(○) カ、夏季休業中の地域清掃ボランティア実施(△)
	(4) 保護者と学校が進路目標を共有	オ 企業ニーズにマッチした職業教育の実施 カ 社会貢献活動を通して、自他の存在価値を認めあえる人づくり (4) ア 進路説明会等の充実(説明会・学習会・懇談会・企業見学会の開催) イ 保護者懇談会等で教育支援計画の話し合いを持ち、共通理解をはかる ウ PTAの学校行事への参加 エ 教育活動の発信(学校HP、学校・進路・学年通信の定期発行、連絡帳の活用)	カ 年間2回の地域清掃等ボランティア活動 (4) ア 年間5回以上 イ ・1年生は入学後の家庭訪問、懇談会年間2回 ・2年生は保護者懇談会年間3回 ウ 学校行事(すながわ祭、スポーツ大会、地域ボランティア活動、実習報告会等)への参加3回 エ ・月2回以上の学校HP更新、 ・毎月1回の通信発行(学年通信等)	(4) ア、PTA関係をの、年間6回の進路関係説明会等を実施(○) イ、ウ、進路に関して保護者懇談会等予定通り実施(○) エ、HP更新は月1回、PTA通信等は2月発行予定(△)

府立すながわ高等支援学校

<p>一、地域の知的障がい生徒の就労支援の拠点校としての使命を果たす</p>	<p>(1) 支援教育のセンター的機能の発揮</p> <p>(2) 積極的な広報活動により地域、企業とつながります</p> <p>(3) クラブ活動の活性化と高等支援学校どうしの連携</p> <p>(4) 泉北・泉南地域の支援学校の包括的な連携</p>	<p>(1) ア 地域の高校等への本校キャリア教育の伝達及び生徒支援 イ 共生推進校及び地域の諸学校との交流と連携 ウ 地域へ本校の取組みの紹介</p> <p>(2) ア 創立2年目を迎えた本校の存在を地域資源(法人・企業)に全教員で積極的な広報活動により職場実習先の開拓 イ 地域への社会貢献と地域資源の活用</p> <p>(3) ア クラブ活動を通じて自己有用感を高める イ 高等支援学校4校の連携</p> <p>(4) 佐野支援学校、泉南支援学校、共生推進校との進路指導、生徒指導での包括的な指導体制の構築</p>	<p>(1) ア 近隣の高校2校の支援 イ 支援1校、高校2校(共生推進校との学期ごとの協議と交流)、中学1校と交流。 ウ ・オープンスクールの実施 ・学校説明会の実施 ・職業現場実習報告会等の開催</p> <p>(2) ア ・全教員での200件以上開拓。 イ 本校周辺の店舗との交流及び製作物の展示販売</p> <p>(3) ア 部活動奨励(週3回)と他校との活動交流 イ 高等支援学校リーグの活動開始</p> <p>(4) ・泉南支援学校と学校間連絡会議を月1回開催。 ・行事、訓練、教員研修の合同実施を各年間1回以上</p>	<p>(1) ア、高等学校からの支援要請がなく実績なし(△) 来年度は年度当初に周知実施 イ、泉南支援、りんくう翔南高校、大体大浪高専と作品、クラブ交流実施(○) ウ、オープンスクール3日約500名、学校説明会2日約250名の参加あり。夏季休業中に地域教員対象の支援教育研修会も実施し50名以上の教員が参加(◎)</p> <p>(2) ア、12/25現在430件の企業開拓達成。企業約40社より就労可能の内諾あり(◎) イ、カフェ・フレンズ、イコラモール等の協力店舗様に週1回の生徒接客実習や物品展示販売等実施。地域住民との交流も実施(○)</p> <p>(3) ア、併設の泉南支援学校との調整で週3回クラブ活動実施。プロバスケットボールbjリーグ大阪エベッサスタッフのコーチ事業を本校で開催。他校生とも多数参加。サッカー知的障がい全国大会に出場。バスケット高等支援5校リーグ戦開催(◎)</p> <p>(4) 月1回の学校間連絡会議開催。災害避難訓練等合同実施(○)</p>
<p>三、地域に貢献できる社会人、職業人を育てる 校内組織の充実</p>	<p>(1) 教職員の見守る力で安心・安全に過ごせる学校環境づくり</p> <p>(2) 常に進化を続ける学びと実践の人材育成</p>	<p>(1) ア 生徒が安心して安全に過ごせる学校環境づくり(人間関係トラブルの未然防止) イ 生徒・保護者の教育相談の充実を図る ウ 問題行動に対する生徒指導体制確立(見守りによる予防・抑止効果で問題行動を未然防止)</p> <p>(2) ア 人材育成に組織的に取り組む イ ICT活用の徹底で校内情報の共有化と教育活動での活用・実践例蓄積・全体共有を推進する(校務と授業) ウ 経営会議(管理職、首席)及び将来構想会議で創立2年目の諸課題を解決</p>	<p>(1) ア ・熱中症、感染症等の予防 ・イジメ・体罰防止の指導(年2回アンケートと研修) ・携帯、メール・ブログ被害の危険性防止講習実施 ・道徳の時間を活用し、年間を通じた仲間づくりをテーマとした授業の実施 イ ・研究支援部と学年が連携し、生徒・保護者に寄り添う教育相談を実践して、困り感を解消 ・困り感のある生徒支援のために、臨床心理士や作業療法士との相談体制の確立 ウ ・教員の気づきによる報・連・相の徹底 ・登下校通学路指導 ・校内巡視の実施</p> <p>(2) ア 校内初任者の研修体制の構築 イ ・校内ICT機器を校務・授業等で活用、蓄積、事例の全体共有 ウ 経営会議 週1回、将来構想会議月2回の開催</p>	<p>(1) ア、熱中症予防の為にウォータークーラー設置熱中症無(○) ・参加型人権研修年3回、悩み相談アンケートボックス設置(○) ・道徳授業「他者理解と仲間づくり」実施いじめ0件(○) イ、関係機関、保護者との連携のもと困り感や性的問題行動のある生徒の相談支援体制をリーディングスタッフ、進路コーディネーターを中心に展開問題事前把握(○) ウ、職員朝礼終礼時に生徒事例報告実施。生活指導部が中心になり登下校指導や校内巡回体制を展開。生徒の学年間情報共有(○)</p> <p>(2) ア、校内初任者パディシステムで、一人の初任者に対して2名体制で校内OJTを実施して経験の浅い教員支援(○) イ、ICT研修会を開催して、授業現場実習等で活用(○) ウ、将来構想会議月1回(○)</p>